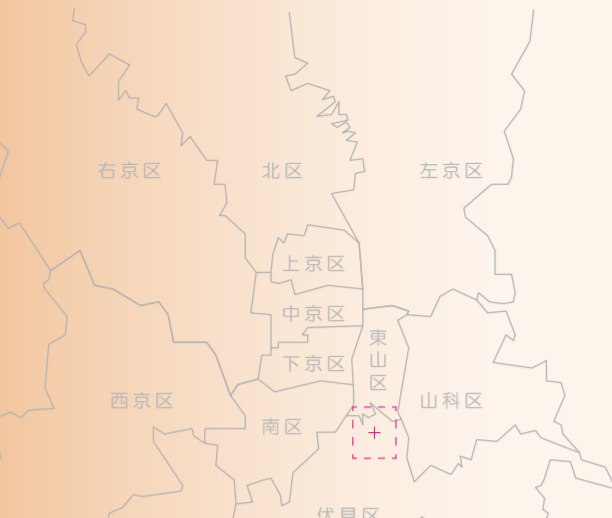






# 今熊野 稲荷



## ～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 今熊野 稲荷周辺の発掘調査

今熊野 稲荷は東山連峰西南麓にあり、京都市の東山区の南部から伏見区の北部に位置しています。北は泉涌寺道から南は伏見稲荷の南辺までの範囲です。この地区には本町通と呼ばれる伏見街道が南北に通っています。この道は桃山時代、京と伏見を直結する道として開かれたといわれています。山麓部の今熊野地区は中世に泉涌寺の所領となり、泉涌寺背後の月輪山には四条天皇以降、歴代天皇の山陵・月輪諸陵が造営されました。泉涌寺の西側には現在、東福寺の境内が広がっています。東福寺造営以前は平安時代中期に創建された法性寺(ほうしょうじ)の広大な寺域が広がっていました。法性寺跡の発掘調査では平安時代から鎌倉時代の墓跡や溝跡、弥生時代の墓や古墳時代の竪穴住居などが見つかっています。また、南接した正覚寺跡では平安時代後期から鎌倉時代の建物跡が見つかっています。稲荷地区は伏見稲荷大社の門前町として栄え、伏見街道沿いに町屋が並んでいました。稲荷大社は平安京造営以前、秦氏により建立されました。背後の稲荷山には古墳が点在し、稲荷山古墳群と総称されています。千本鳥居参道脇には古墳時代の墓が見つかった稲荷山命婦谷(みょうぶだに)遺跡、山上には稲荷山経塚があります。境内にある史跡荷田春満(かだのあずまろ)旧宅では発掘調査が行われ、江戸時代の建物跡が見つかりました。

### 12 法性寺跡

法性寺は摂政関白藤原忠平により延長三年(925)に創建されました。その後は、藤原氏の氏寺となり何代にもわたって子院の造営が行われました。寺域は鴨川の東に位置し、法住寺殿の南から現十条通り一帯を占めていました。その後、延応元年(1239)に法性寺域に九条道家により東福寺が造営され、法性寺は衰退していきました。法性寺跡では2010年の発掘調査で、平安時代の木棺墓や鎌倉時代の溝が発見されました。また、法性寺造営以前の弥生時代前期の溝、同中期から後期の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居なども見つかっています。2011年の本町通と十条通交差点付近の調査では古墳時代から中世の溝や柱穴などと共に、江戸時代から明治時代初期の小型の窯や作業場の一部が発見され、伏見人形の土型や原型が大量に見つかり伏見人形の工房があったことが明らかになりました。江戸時代中頃以降、本町通沿いは土産物として伏見人形を売る店や窯元が軒を連ねていたところで、当時の状況を知る貴重な発見となりました。

### 1



発掘調査の様子



溝跡(鎌倉時代)



木棺墓跡(平安時代)



竪穴住居跡(古墳時代)



方形周溝墓跡(弥生時代)



溝跡(弥生時代)



出土した弥生土器(弥生時代)

### 2



発掘調査の様子



伏見人形を焼成した窯跡(江戸時代から明治時代初期)



伏見人形の土型や原型(江戸時代から明治時代初期)

### 3 正覚寺跡

正覚寺跡は工事の際、立会調査で平安時代後期の土器や瓦が採集され、また遺物が含まれた土層も確認されました。瓦が採集されたことから寺院跡と考えられ、出土の正覚町より正覚寺跡と付けられました。1979年に伏見区深草正覚町で発掘調査が行われ、平安時代後期から鎌倉時代の建物跡や溝跡、柵跡が発見されました。建物周辺や溝跡からは平安時代の土器や瓦が多数見つかりました。



発掘調査の様子



建物跡と石列は雨落溝(平安時代後期から鎌倉時代)

### 4 史跡荷田春満旧宅

江戸時代中期の国学者、荷田春満の居宅跡で、伏見稲荷大社の楼門脇に位置しています。敷地は伏見稲荷大社の社家の屋敷地で、現存する建物は社家の屋敷構えがわかる貴重な建造物です。2007年に敷地内で発掘調査が行われ、江戸時代の建物跡と整地の跡が発見されました。柱の礎石を据えるための穴に小石を敷き詰めた根石跡が5箇所で見つかり、整地層からは江戸時代中期の土器や瓦などが出土しました。建物は天明年間(1781~1789)に描かれた指図とも一致し、江戸時代中期の荷田春満の居宅の一部が明らかになりました。



荷田春満の旧宅とみられる建物跡(江戸時代中期)



建物の根石跡(江戸時代中期)

### 5 稲荷山命婦谷遺跡

1980年に伏見稲荷境内の千本鳥居の参道脇から、円筒埴輪棺と呼ばれる古墳時代の墓が発見されました。二つの円筒形の埴輪をつなぎ合わせて墓坑に据え付け、棺として用いたと考えられています。本来、埴輪は比較的大型の古墳に立て並べられることが多いことから、近くにあった古墳から抜いて、棺に転用されたとみられています。



埴輪棺が出土した様子(古墳時代前期)



復元された円筒埴輪棺(古墳時代前期)

(写真掲載『平安京以前～古墳が造られた時代～』京都市文化財ブックス第26集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)



東福寺 稲荷に関する発掘調査地の位置図



### 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435  
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1  
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307  
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/  
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)  
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分  
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

